平成21年6月1日　第250号

わがまち

プランニング・デザイン・総合印刷・オンデマンドデジタル印刷・可変データ印刷
大判ポスター出力・データベース・PDF高速データ変換・CD-ROM制作・
3D・CGアニメーション企画・制作
半田中央印刷株式会社
〒475-0032　半田市潮干町1番地の21
TEL〈0569〉29-2525（代）　FAX〈0569〉29-4500
E-mail:main@handa-cp.co.jp　http://www.handa-cp.co.jp

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション　あかい新聞店ホームページ http://www.akai-shinbunten.net　<発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356　常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861
企画・制作：株式会社 新聞ビル

Nobuo Murakami

元気のでてくる"ことばたち"(128)

村上信夫（アナウンサー）

「ちゃんと」暮らそう

～アメニティアドバイザー 近藤典子さん～

アメニティアドバイザーの近藤典子さんは、簡単明快に「収納」のコツを伝授してくれる。いつも「なるほど」と関心させられるアドバイスをしてくれる。特別なものを用意するのではなく、ふだん使っているものを有効活用する「素朴さ」はとっつきやすい。テレビ、ラジオ、講演にと、・・・ひっぱりだこの人気だが、主婦感覚から抜け切っていないところが、多くの人から支持されるゆえんであろう。

片付け下手が収納の達人に

近藤さんは、片付けが大の苦手だった。子どもの頃から、苦手どころか片付けられなかった。高校時代、弁当箱を5個も持っていた。家に持ち帰るのを忘れるので、その都度増えたからだ。ロッカーに何でも詰め込む。何がどこにあるのかわからない「ブラックホール」状態だった。

結婚したころは、ひどいダメ主婦だった。洗濯物を3日干したままにしておき、大家さんに「そろそろ取り込んだら」と言われる始末。突然、人が来たら、洗濯物の山はこたつに押し込む始末。汚れたお皿は、シンクに重ねたままという始末。家事は、いまでも好きではない。

引越しサポートの仕事をするうちに、暮らしの快適さは、家庭によってまちまちと気づいた。それぞれの家庭事情に合ったアドバイスのアイデアが湧き始めた。片付けや家事が得意ではなかったから、固定観念に縛られず、いろんなことが試みられた。片付け下手な人を見ると、その解決の答えは、自分の振る舞いにあった。本来の道具の用途に縛られず、違うところで応用することを提案出来た。隙間の応用はお手のものだ。要は、モノに左右されるのではなく、自分の生活にモノを合わせたらいいのだ。

「家事や収納は目的ではない。暮らしを楽しむための手段」と言い切る。

近藤さんの紆余曲折

1957（昭和32）年、神戸市の生まれ。乾物店を営む両親の三女として誕生した。父が90歳、母が84歳で、両親は健在だ。

小学校の6年間は、リーダーシップを買われて、ずっと学級委員をしていた。絵画が好きで、コンクールに何度も入選し、「才能があると勘違い」したそうだ。中学校でも美術部にいたが、ある時、走り幅跳びの助っ人を頼まれ、大阪市中学体育大会に飛び入り参加したところ、いきなり優勝してしまったのだ。陸上部に鞍替えし、体育会系少女に変身する。

高校は体育科で、バスケットボール部に所属、スポーツに明け暮れる日々を送った。体育大学に進学するつもりだったが、膝の故障をきっかけに、リハビリに興味を持つようになる。

理学療法士（リハビリ）の道を志すが、リハビリの学校の入試に、2年連続不合格となる。リハビリから柔道整復師に方向転換して、柔道整復師の学校を受けたが、またまた不合格。

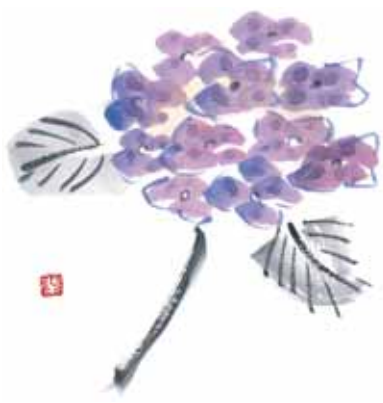
心機一転の思いで、上京を決意したのは、1979年、22歳の時だった。そして、ようやく東京柔道整復師専門学校に入学。1980年、上京の翌年には、将来の夫と運命的な出会いをする。1981年、柔道整復師の資格を取り、整形外科に就職。1983年、結婚と、上京してからは、何やらトントン拍子に事が進んでいく。

しかし、1986年に妊娠したものの、子どもは8ヶ月で死産してしまう。このショックから立ち直らせてくれたのが夫だった。夫は、引越しの荷造り、荷解き、ハウスクリーニングをする会社を立ち上げたばかりだった。気晴らしに、会社を手伝わないかと持ちかけてくれた。これが、大きな転機となる。

最初は、失敗ばかり。親切がアダとなったり、気がつかないと叱られたり・・・。整理整頓のアドバイスをするうち、実例から収納のテクニックが見えてきた。市販のカラーボックスを自分の家具に作り変えるアイデアはブームになった。これまでアドバイスした家は2,000軒以上にのぼる。亡くなった子どものことを考えないように、猛烈に働いたのかもしれない。

1989年、初めて雑誌の取材を受けた。偶然、その雑誌の編集長宅の引越しを請け負っていた。細やかな仕事ぶりが目に留まり、取材を受けた。これが、その後のすべてのきっかけだった。仕事が仕事を呼び、活動範囲が広がっていく。収納の達人として、注目の存在になっていく。

1990年、『アメニティアドバイザー』という肩書きを自分でつけた。家事や収納の評論家ではない。快適な暮らしの助言者という思いからだ。



俳画／イネ・セイミ

NHK

■村上信夫プロフィール
NHKチーフアナウンサー
1953年、京都生まれ。
明治学院大学卒業後、
1977年、NHK入局。
富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。
現在は、『ラジオビタミン』担当。（ラジオ第一 8：30～11：50）
これまで、『おはよう日本』『ニュース7』「育児カレンダー」などを担当。
教育や育児に関する問題に関心を持ち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。
趣味は、将棋。
著書に『元気のでてくることばたち！』（近代文芸社）
『おやじの腕まくり』（JULA出版局）『いのちの対話（共著）』（集英社）『いのちとユーモア（共著）』（集英社）

ちゃんと生きる

暮らしの知恵や考え方を伝授する『暮らしアカデミー』を、全国4ケ所で開いている。

「これまでの経験をもとに、日々の暮らしの中で体験し気づいたことを話して、快適生活の扉を開くお手伝いをしようと思って」

そういう場で、いつも言うことがある。それは、常日頃から、「ちゃんと」暮らそうということだ。

ストレスが生まれない「ちゃんと」した家とは、3つの「間」がある家。それは、「空間」「時間」「人間」。モノの出し入れがしやすい、ほどほどの収納スペースがある「空間」。何かしながら動き、ロスタイムが少ない「時間」の有効活用が出来る工夫。家族間でほどよくコミュニケーションが取れ、ほどよく「人間」のプライバシーが守れる間取りが考えられている。

そして、「ちゃんと」料理をする。「ちゃんと」遊ぶ。「ちゃんと」人を招く。そうしていれば、暮らしの中に、「ちゃんと」したゆとりが生まれる。

好評発売中

■イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の（故）川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元（故）村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中
ところ　常滑屋
とき　月二回　第二・第三金曜日
午後一時～三時
会費　一回　二、二二五〇円（三ヶ月分前納制）
問合せ　☎〇五六九（三五）〇四七〇

フルート奏者
イネ・セイミ
一音一音いとおしむように奏でる音色
貴方に幸せを届けます
コンサート依頼はこちらへ
☎0563(32)0583
（セイミオフィス）

慈愛の人・良寛(48)

杉本武之

同時代の人たち（その1）

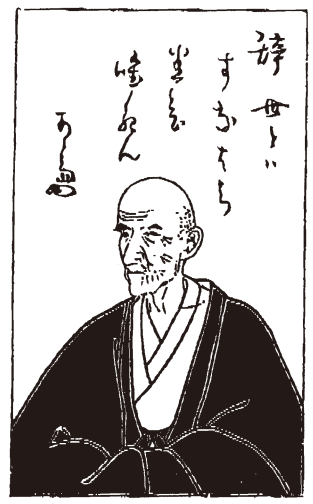
科学史・医学史の研究家・立川昭二の著書『江戸人の生と死』（ちくま学芸文庫）は、とても面白い本です。良寛とほぼ同じ時期、つまり江戸後期に、個性豊かに生き、そして死んでいった6人の男女の生と病と死が取り扱われています。良寛以外にも、すばらしい一生を送った人たちがたくさんいたことが分かります。

森鴎外が名作『高瀬舟』の素材を得た随筆『翁草』の作者・神沢杜口（写真参照）。前野良沢らと苦労して翻訳し『解体新書』として刊行した蘭医・杉田玄白。怪異小説『雨月物語』の作者として有名な上田秋成。「我と来て遊べや親のない雀」など親しみやすい俳句を数多く作った俳人の小林一茶。時には農民や子供たちと交わり、万葉調の和歌や瑣末な規則に囚われない漢詩を作った禅僧・良寛。超大作『南総里見八犬伝』の作者・滝沢馬琴の息子の嫁で、失明した馬琴が『八犬伝』を口述するのを筆記した滝沢みち。

一人一人について詳しく書くことはできませんが、この本に引用されている彼らの言葉を中心にして、江戸後期の魅力的な人物たちの生き方と死に方を紹介します。

まず、まるで現代人のような意識で生きた神沢杜口（1710～1795）。

神沢杜口（ほかに可々斎などの号がある）は、宝永7年（1710）入江家に生まれたが、11歳の時に神沢貞宜の養子になり、のち貞宜の娘と結婚。20歳の頃、養父の跡をついで京都町奉行所の与力となる。40歳頃に病弱を理由に退職。引退後も京都に住み、死ぬまでの45年間、好きな俳諧のほか、代表作『翁草』二百巻をはじめ数多くの著作の編述に没頭した。各地の伝説・奇事・異聞を諸書から抜き書きしたり、杜口自身の見聞を記録した『翁草』は、四百字詰原稿用紙に換算して一万枚に及ぶ大著である。


神沢杜口

妻の死後、44歳の杜口は、娘一家と暮らさずに、独居の道を選ぶ。そして、借家に住み、死ぬまでの約40年間に18回も転居する。杜口は次のように書いている。

「物を構はねば、子孫の邪魔にもならず。我、仮の庵を、そこここと住み替ゆること十八ヶ所。猶生きなば又も替へなん。これ、仮の世の仮なることを忘れぬ方便なりけり。一年、ふた年住めば倦き、倦けば余所へ移り、移れば、まためづらかに気を養ふ。よきもあしきも一所に止らず。（中略）同じ所に居れば情が尽る故に、かくなん棲み替るなり。それも佳景の処、あるは遊里近き所には一度も棲まず。これ、面白過ぎ、繁華過ぎるの難あればなり。景色も、稀に見ればこそ興あれ。明け暮れに見ば、あたら風色も、などか飽かでやは有るべき。市中に隠れ居れば、物、不自由ならず。いづこへ行くも偏らず」

杜口は、世間や家族の絆を絶ち、独りで生き抜いた。後を継いだ娘一家に対しても「他人あしらい」をしていた。子や孫に執着することを避けていたのである。

「我が妻は先に死し、五人の子あり。四人は無し、末女、家を継ぐ。孫三人をもうけしが、二人失ひて、世俗言ふ、子ひとり、孫ひとり也。世の常の人は、これを、たなごころの玉として愛ひ迷ふ習ひなれども、我はその絆を離れて、他人あしらひ也。これ、あまたの愁ひに逢ひたるままに、その執着を払ひのける工夫の功を積みて、かくの如し」

杜口は、人間も蚯蚓も同じ存在だと考えていた。「畢竟、人も溝虫も差別なく、天地の間の造化の一気を借りたる蛆虫なれば、何の論もなし。我も久々、造化の気を借りて蠢めき居れば、せめて借りものを損ねぬようにして返したきと思ふばかり」。そして、常に願っていたように「終焉、静かに眠るが如く」息を引き取ったのは寛政7年（1775）2月11日で、86年の生涯だった。

杜口の墓は、京都市上京区出水通の曹洞宗・慈眼寺にある。風化のひどい墓石に、杜口の辞世の句が彫られている。

「辞世とは　すなわち迷ひ　ただ死なん」。辞世の句などは心の迷いにすぎない、ただ黙って死んで行くのがよい、といった意味です。

次は、『蘭学事始』などを著した蘭医・杉田玄白（1733～1817）。

玄白は、江戸の小浜藩邸に生まれた。代々、藩の外科医を務めており、彼もその道を進んだ。オランダの解剖図譜『ターヘル・アナトミア』を、4年かかって前野良沢らと苦労して翻訳し、安永3年（1774）『解体新書』という名前で刊行した。日本最初の西洋解剖書の訳本である。

名医として評判の高かった玄白は、年老いても一日一日を真摯な態度で生きた。権力者や富裕者に対しても、医者として同じ態度で接した。78歳の時に出版した『形影夜話』の中で、玄白は医者としての毅然たる志操を次のように書いた。

「この年月、権門、富貴の家へも出入りする故に、利達を得るためなりと賤む輩もあるべし。また妓家、俳優の家へも招き来たれば行くことある故、志操の立たぬ男と謗る族もあるべし。されど翁は決して頓着せず。招けば至り、託すれば療治す。底心、名利のためにする志ならねば、権貴の人にても、病療て後は再び出入りせず。もとより此の意なれば、年始暑寒等の無益なる事には奔走せず。目当てとなす所は、一人なりとも病人多く取り扱ひ、療治の機会を自得せんと欲してなり」

文化14年（1817）4月17日、よく晴れ上がった日に、杉田玄白は85年の長く充実した生涯を終えた。

玄白の墓は、東京都港区虎ノ門の栄閑院にある。黒づんだごく平凡な角石墓である。

つづいて、『雨月物語』『春雨物語』の作者・上田秋成（1734～1809）。

秋成は大阪に生まれた。小さい時から神経過敏で、一生、自分は「癇症」であるという病識を強くもっていた。癇症が起こると、頭に気がのぼったり、手が震えたりした。

64歳の時、妻が急死。嘆き悲しみ、心身が不調になり、投身自殺を考える。しかし、「身を捨てん海川や何処とおぼしめぐらす程に、月日過ぎにけり」。やがて眼も不自由になり、死を願う気持ちがますます強くなった。69歳の秋成は、南禅寺山内の菩提寺・西福寺の紅梅の木の下に自分の墓を作った。そして、晩年、この西福寺の一隅に孤独の身を寄せていた。

ある粉雪の舞う寒い日、近くの里の人達が20名ほど、食物や鍋を下げて西福寺に集まり、寄り合いを始めた。字の書けない里人たちが、寺に仮寓している秋成のことを噂して、読み書きの二つを大事にしたために、目が見えなくなった愚か者だと大声で話していた。覗き見していた秋成は、その一部始終を軽妙な筆致で書き留めた。

「ここに秋の頃より、まれびと（お客）の宿りておはすは、世の物知りとて、あるじの法師のいたはりかしづきたまへるが、目を病みて、立居起き伏しあやうげに見ゆ。読み書きにをさをさしき（すぐれている）と言ふも、物書かぬおのれ等には、今は劣りたまへりとぞ。あまりに、此のふたつを大事として、目つぶされたる愚か人なり。（中略）かまへてかまへて（決して）、子どもらに読み書き習はすな。はてはては目やぶれむ」

最晩年、秋成は次のような悲痛な言葉を書き残した。「今、七十五。嗚呼、天は何のために我を生みしか」。文化6年（1809）6月27日、秋成は門人の家の離れで死んだ。75歳だった。そして、存命中に作っておいた西福寺の墓に埋められた。（つづく）

〈杉本武之プロフィール〉
1939年　碧南市に生まれる。
京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。
〈趣味〉読書と競馬

この指とまれ(159)

氏原朝信

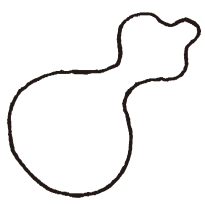
鬼ごっこ(3)

「鬼ごっこ」シリーズとして、平成一〇年三・四月号に紹介しましたが、名前だけ紹介していたものから、子どものころ、よく遊んだものを紹介します。あまり広くない所でも、地面に陣地をかいて遊んだ鬼ごっこです。

ひょうたん鬼

遊び方

① 地面にひょうたん型の陣地をかく。



② 人数は、三・四人から二〇人くらいでもよい。鬼は一人でよい。

③ 鬼はジャンケンで決める。

④ 鬼以外は全員、ひょうたんの中に入る。鬼は外から中の子をタッチするタッチされたら、外に出て鬼になる。

ひょうたんのくびれた所をまたいでも、飛びこえてもよい。

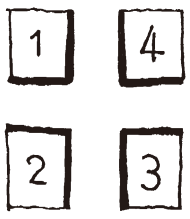
⑥ 全員が鬼になったら、一番先にタッチされた子が鬼になる。

＊ 応用編として、ひょうたんの口にドア代わりに細木を置く。鬼以外は、その細木を動かして出入りが自由にできるので、外に出て逃げることもできる。細木を開けたままにしておくと、鬼は中に入って中の子をタッチすることができる。

十字鬼

遊び方

① 地面に図のように四つの陣地をかく。



② 人数は十人くらいで、鬼は一人。

③ 鬼はジャンケンで決める。

④ 鬼以外は、全員、1の場所の中に入る。「スタート」の合図で、数字の順（時計と逆回り）に陣地を飛び移りながら2周回っていく。そのとき、鬼は十字の所と外側だけを通って中の子をタッチする。タッチされたら、外に出て観戦する。

二周回るまでに陣地内に誰もいなくなったら、終了。そのときは、一番先にタッチされた子が次の鬼になる。

二周回るまでに誰も捕まえられなかったら、引き続き鬼になる。

料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!

とっても簡単！ ひんやりわらびもち

所要時間20分くらいでできる簡単なデザートです。お子さんのおやつにもぴったりですよ♪

材料

- わらび粉…50g ―Ⓐ
- 砂糖…100g ―Ⓑ
- 水…250～300cc ―Ⓒ
- 黒蜜orきなこ…適宜 ―Ⓓ
- 氷水…ボールに適量 ―Ⓔ

作り方

❶鍋にⒶとⒷを入れ、木ベラで混ぜⒸを少しずつ加えながら混ぜる。
❷❶を中火にかけ、木ベラで混ぜながら煮る。
トロミがついてきたら、手早くかき混ぜ、炊き上げて火を止める。（やわらかめがよければトロミがついたらすぐに火を止める。固めがよければ、よく混ぜて水分を飛ばして火を止める。）
❸Ⓔの中に❷が熱いうちに流し入れ放す。
❹❸をまな板の上に引き上げ、一口大にスプーンでちぎる。
❺冷やしておいた器に入れ、Ⓓをかけて完成!!

いべんと

◎常滑市民文化会館
▼八木美知依箏曲研究室演奏会・六日（土）午後六時～同八時四十分
▼常滑市制55周年記念　NHKハートフォーラム　発達障がい―みんなで考えよう　子どもの成長・十四日（日）午後一時半～同四時
▼夏期講習会・二十三日（火）午後二時～同四時半
▼常滑市制55周年記念　それいけ！民謡　うた祭り・二十六日（金）午後六時十五分～同八時

◎常滑市立図書館
▼常柳会展～六日（土）
▼グループ「翔」展・七日（日）～十七日（水）
▼山方写生会展・十八日（木）～七月三日（金）

◎常滑市民俗資料館
▼第一回企画展「山茶碗とその仲間」・～七月五日（日）

◎常滑市体育館
▼愛知県小学生バドミントン大会・六日（土）
▼常滑市民卓球大会・七日（日）
▼市内中学校対抗卓球大会・十三日（土）
▼前田杯争奪知多地方中学校卓球大会・十四日（日）
▼ふるさとの歌踊り講習会・二十日（土）
▼市民バドミントン大会・二十一日（日）
▼知多マリンカップ（バスケットボール）・二十七日（土）
▼第七十九回常滑市ママさんバレーボール大会・二十八日（日）

◎常滑市中央公民館
▼市民講座Ⅰ・七月二日～三十日（毎週木・全五回）午後一時半～同三時半　内容　第一回「やきもの散歩道」講師　平野篤さん　第二回「楽遊館（旧マツヤ足袋別邸）」講師　岡康正さん　第三回「籠池古窯、高砂古窯」講師　中野晴久さん　第四回「弘法山、高砂山」講師　本美信聿さん　第五回「常滑城址、大野城址」講師　前原憲和さん　場所　中央公民館視聴覚室　対象　市内在住、在勤の人　定員　三十名　受講料　無料　申込み期限　十八日（木）　申込み先　生涯学習課・中央公民館☎35―6311
▼ヤングカルチャー「ゆかたの着付け教室」・十九日～七月十七日（毎週金・全五回）午後七時半～同九時　内容　ゆかたの着付け　講師　松下重子さん　場所　中央公民館和室　対象　市内在住、在勤の人　青年男女（三十五歳まで）　定員　二十名　受講料　千五百円　持ち物　ゆかた・半幅帯　申込み期限　十三日（土）　申込み先　生涯学習課・中央公民館☎35―6311　問合せ　生涯学習課☎35―5111（代）内線386　FAX34―7227
▼協賛事業「癒しの気功入門」・十三日～二十七日（毎週土・全三回）午後二時～同四時　内容　気功　講師　杉江満寿夫さん　場所　中央公民館和室　対象　市内在住、在勤の人　定員　二十名程度　受講料　無料　※体操の出来る服装　申込み期限　六日（土）　申込み先　生涯学習課・中央公民館☎35―6311　問合せ　ゆしん会代表　松下知子☎34―4504

◎青海公民館
▼ヤングカルチャー「ヨーガ」・十一日～七月九日（毎週木・全五回）午後七時半～同九時　内容　ヨーガ　講師　岩本智恵美さん　場所　青海公民館講義室　対象　市内在住、在勤の人　青年男女（三十五歳まで）　定員　二十名　受講料　千五百円　持ち物　敷きマット　※体操の出来る服装　申込み期限　六日（土）　申込み先　生涯学習課・青海公民館☎43―6622

◎鬼崎公民館

（5ページへ続く）

誠意をこめて安心のお手伝い
年中無休・24時間体制
(有)大阪屋葬祭
常滑ホール／鬼崎ホール／阿久比ホール
TEL〈0569〉35-4949（代表）
FAX 35-4911

知多の新鮮たまご
発酵ケイフン
(有)知多エッグ
知多郡武豊二ツ峯380
TEL0569-73-6341

愛知県立大学名誉教授

山田正敏

『バリ島 行ったり来たり』(18)

《伝統的なバリの村に住む》⑤

――日本人バリ島観光ブームの渦中で、体調を乱した村の娘さん（前号参照）に会う――

地域からの〝はじめての来訪者〟である〝その娘Aさん〟は、管理人の家族と共に、即日夕刻に来訪された。

彼女の日本語の話しぶりは、管理人の紹介どおり、いやそれ以上に、外国人特有の、どことなく聞きづらい訛もなく、聞き易い話しぶりである。妻との会話も、まるで〝日本人どうしの会話〟のようである。

私のAさんに対する第一印象は、彼女の日本語の流暢さであり、顔つき・言葉づかいからいって、まるで日本人そのもの――、という印象である。

会話には、自らの発言力もさることながら、相手の発言内容の理解力が問われるが、その理解力も相当なものである。

妻と二人で〝日本語の会話〟を久し振りに楽しんでいるようであり、もうすでに旧知の間柄のようでもある。

二・三ヶ月の静養により、体調も回復された様子で、外見上〝病み上がり〟の、やつれた様子も見当たらない。その元気な様子に、まずホッとさせられた。

《多忙な日々を暮らす》

妻との会話を側聞していて、彼女のチュルク村での日本人観光団体客相手の接客の様子は、私が前号で想像していた以上の、心身ともに〝多忙な生活〟であったようだ。

彼女は、持ち前の日本語力を買われ、店頭で日本人観光客との接客・販売に携わる多くのバリの娘さんへの日本語指導・通訳とマネージャー的役割を任され、日々自らも、日本人観光客の接客に当っていたと言う。

◆

今は、あまり聞きなれない日本語かも知れないが、接客をはじめ、忙しい人間関係の様子を、言いあらわす慣用句として、**「相手変わって、主変わらず」**という言葉が、日常よく使われていた。

彼女の店頭での働きの様子を聞いていて、私はこの死語になりかけていたこの慣用句を、思わず口ずさんだ。「相手変って、主変わらず」――。

観光バスの到着と共に、店頭に殺到する日本人観光客。そのたびの喧騒……。その主な店頭での会話の内容は、百パーセント商品の値下げ交渉。それぞれの商品には、それぞれの値札が付けてあるのに……。

これらの日本語の会話内容は、店頭での日本人との接客の中で、日本語を耳で覚え、文字で理解し磨き上げてきた彼女は、容易に理解でき、苦労なく、従業員の問い合せに事欠くこともなかったようである。

しかし、彼女の日本語は、店頭での日本人との接客の中で覚えた〝商用日本語〟と、簡単な〝日常生活用日本語〟であり、それで充分であったが、九〇年代からの日本人バリ島観光ブームの中で、大量の日本人との接客の中で、その限界を思い知らされることも徐々に増えてきたようである。

◆

「少し、〝べんきょう〟して……。」と、いう日本人の女性客からの問いかけの意味を、一人の従業員から尋ねられた。

その日も、早朝から観光バスが並び、商売繁盛の一日が始まったばかり――。他の店頭の多くの販売員の女性たちは、大量の観光客と淀みなく接客・販売しているのに、「少しべんきょうして……。」と商品を差し出されたその従業員は、その客を待たせたまゝ、通訳兼マネージャーの彼女の処に駆けつけてきた。

〝商用日本語〟は、彼女同様、それぞれに従業員も大分力量をつけてはきたものゝ、理解できない日本語は、まだまだある。

彼女は、日本語の「勉強」＝「努力して習ったり、学んだりすること」の意味は、知っていたものゝ、「値段をやすくすること」という『勉強』の俗語の意味までは知らず、直接客に会い学んだものの、その間の接客の停滞には、困惑、苦悩させられたという。

《人間、多忙と疲労の中で〝うつ症状〟》

接客の多さと共に、このような日本語表現の多様さに翻弄される日々……。〝相手変って、主変わらず〟の日々……。その一つ一つが、ストレスになり、解消されることもなく、蓄積される日々を多忙な生活の中で送っていたようである。

若い彼女も、酷く疲れる「疲労困憊」状態――。食欲がなく、眠れず、疲れやすく、興味・関心・気力減退、期待されている日本語力の弱さで、職場に迷惑をかけているという無力感と自分を責める自責感……で、〝おちこみ〟・〝滅入る〟……。

彼女の語る〝職場での多忙な日々〟の、身体症状と精神症状を整理・列挙してみると、このようである。典型的な人間の異常な状況＝「鬱」（うつ）症状である。

彼女の口からは、〝おち込み・滅入る〟その果ての「死んでしまいたいと思う」という「自殺」に結びつくまでの言葉は語られなく、親の判断力で帰郷、静養でき、ホッとさせられたが、日本の場合、中・高年の管理職に、鬱病の果ての自殺者も現われ、今や、子どもの鬱病が注目されている。

東京慈恵会医科大学精神医学講座の中山一彦教授は「鬱病は、疲労病である」と、明快に規定している。納得のいく定義づけである。

43年ぶりに復活した小・中学校の全国一斉学力テストが実施された昨年、NHKテレビのニュースで、中学生に、その感想を尋ねたところ、「テストばっかりで、忙しい。疲れた。もっと、ゆっくりしたい。」と語っていた卒直なコトバがいまだに印象的である。

日本での鬱病は、中・高年の社会的役割を担っている49才から59才の年齢層に多いとされていたが、今日では、大人の鬱病の急増にあわせ、子どもの鬱も増えてきているという。不登校や子どもの自殺の中には鬱病が原因になっているケースが少なくないと考えられている。'07年の北海道大学傅田教授らの診断・調査によれば、中学一年の4・1％が鬱病症状を示し、ほゞ大人の鬱病患者の割合と同じという深刻な結果が報告されている。

◆

鬱病への対応は、まず**休息**をとること。専門家の診断を受けることに尽きると言われている。

バリの娘さんも、親の判断で地域に帰り、静養するなど、心身共に健康を回復し、結婚二子の母親となり、時折、わが家を訪れ、管理人と共に、台所の手伝いもしてくれる。

この鬱病の治癒力をもった地域の生活環境への関心を、ますます深めることになった。

童話 たなばたさま（上）

愛知淑徳大学教授　堀尾幸平

(一)

たなばたさまの日は、午後になると、どこの家でも軒先や庭に笹竹や祭壇を飾って、町中がお祭り気分にはなやいでくるのでした。

その日、小学二年生のぼくは、学校からの帰り道を大急ぎで家に向かって走っていました。今日はうれしいことに、母がぼくの大好きな巻きずしを作って待っていてくれるはずです。

学校と家との中間あたりに、にしき川が流れているのですが、その堤防まで来たとき、桜の木の下で、女の子が泣いているのに気がつきました。

黄色いブラウスに白いスカートで、長い髪を三つ編みにしています。絵本に出てくるようなかわいい女の子でした。ランドセルの名札に「四年三組　森下陽子」と書いてあります。ぼくより二つ上の学年だと思いました。

「森下さん、どうして泣いているの?」

いじめられたことは、分かっていましたが、ぼくは、女の子をなぐさめようと思って、特にやさしく話しかけました。

「森下さん」と呼ばれて、女の子はぱっと顔を上げました。

大きな目に涙が光っています。

「ビッコの、ビッコの、陽子やーい!」

「あ、オトコが助けに来たぞ」

橋のたもとで、五、六人の男の子たちがはやしたてています。

わんぱくで全校に知られている、タツオが大将になっているところから、男の子たちは四年生にちがいありません。

「ビッコの陽子を男が助けに来たんだ」

「男と女でカッチン、カッチン、カッチンコ…」

タツオたちが手拍子を打って、はやしたてながら近づいて来ます。

女の子をいじめるなんて最低です。

ぼくは勇気を出して彼らに向かっていきました。

「いじめはやめろっ!」

ぼくは、自分でも驚くくらいの大声を出していました。もう夢中だったのです。ぼくの声におじけづいたのか、その子たちは、はやしたてるのをやめて、すぐに逃げていってしまいました。

本当のことを言うと、ぼくは、とてもこわかったのですが、相手があっさり逃げていったので、ほっとして、桜の木の陽子ちゃんの所にもどりました。

「もう、だいじょうぶだよ」

陽子ちゃんも、逃げていくタツオたちを見て、ほっとしたらしく、ハンカチで涙をぬぐいました。

「もう、安心していいよ。明日、先生に言いつけてやるからね」

ぼくは、陽子ちゃんを安心させるために、はっきりと言いました。

すると、陽子ちゃんはあわてて首をふりました。

「だめよ。先生に話すのは、やめてください」

「いじめたヤツを先生に言いつけて叱ってもらうんだよ」

「お願いだから、先生には言いつけないで!」

陽子ちゃんは強く訴えるように言いました。ぼくは戸惑いました。

「悪い子たちだよ。どうして先生に言ってはいけないの?」

「だって、あの子たち、先生に叱られるでしょ。かわいそうよ」

ぼくは、改めて陽子ちゃんの顔をながめました。陽子ちゃんはもう泣いてはいません。

「いじめた子が叱られるのがかわいそうだ」という、やさしい言葉に、ぼくはびっくりしました。

それから、陽子ちゃんは「先生に言いつけないで、あの子たちにいじめをやめるように直接話してほしい」と頼みました。

ほんとうに陽子ちゃんの言う通りです。さすが、四年生だけあって、考えがしっかりしている、とぼくは、感心しました。

(二)

次の日の放課後、ぼくはタツオたちと話し合うために校門の前で待っていました。

「なんだ、こういち、何の用だ」

「二年生のくせに、上級生を呼び出すとは、なまいきだぞ」

校舎から遅れて出てきたタツオたちが、ぼくをにらんで言いました。

タツオの顔はぼくの頭よりうんと上の方にあります。テツヤがぐいっと一歩前に近寄ってきました。ぼくは、こわくてふるえました。

それでもぼくは、勇気を出して自分の考えをはっきり相手に伝えなければと決心しました。

「ケンカじゃなくて、話し合いたいんです。話し合ってください!」

ぼくは、こわい上級生たちに向かって、夢中で叫びました。

「何を話し合うのだ?」

「女の子をいじめたことは、先生に絶対言わない。だから、これから女の子をいじめるのはやめてください」

タツオたちは、顔を見合わせました。

「本当に先生に言いつけないのだな?」

テツヤが、ぼくの顔をのぞくように言いました。

「言わない。絶対いわない」

「それは、おまえの考えか?」

「女の子もそう思っています。先生に言いつけるのは、あの子たちが叱られるからかわいそうだと、言っていました」

「へーえ」

タツオたちは、顔を見合わせました。

「そうか、わかった。それにしてもおまえは、よくひとりで来たな。おまえは、たいしたヤツだ」

「へへへ・・・おまえはヨウコにほれとるな」

上級生たちが、ぼくを見下ろして笑いました。

「かっこつけやがって・・・」

「アネサン女房は、ダンナをかわいがってくれるから、ありがてえぞ。エ・ヘ・ヘ・・・」

タツオとテツヤが黄色い歯を出して笑いました。

この子たちは、ぼくと陽子ちゃんとのフウフのことをいっているのだ、と思うと、ぼくは、ひとりでに顔が熱くなりました。

その後、タツオたちは、約束を守って、女の子をいじめることはなくなりました。

ぼくも、もちろん、約束どおり先生にも大人にも、話すことはしませんでした。

(三)

それ以来、陽子ちゃんとぼくとは急に仲よくなりました。

時どき、校門の所で陽子ちゃんと会うと、ぼくたちは一緒に帰るようになりました。

陽子ちゃんは、タツオたちがからかったように、少しビッコでした。後で聞いたことですが、陽子ちゃんは小さい時のケガがもとで左足が不自由なのでした。

ぼくは、かわいそうに思って、理科で栽培していた植木鉢や習字道具など重い荷物は持ってあげました。

ぼくより二つ年上ですが、かわいい陽子ちゃんと一緒に帰るのはうれしいことでした。それに陽子ちゃんがそばにいるだけで、ぼくの心はほのぼのとあたたかくなるのでした。

ところが、やがて、ぼくと陽子ちゃんについて変なうわさが流れました。

「こういちとヨウコは、ケッコンしたみたいよ」

「それじゃあ、もうフウフなの?」

「小学生のくせに、いやあね」

同級生たちが話しているのを耳にして、ぼくはびっくりしました。

本当のことを言うと、ぼくも大きくなったら陽子ちゃんと結婚したいと思っていたので、ウワサされることは平気でした。

でも、陽子ちゃんは、とても気にしているようでした。

「みんな、いやらしいことを考えているのよ。わたし、恥ずかしくて、恥ずかしくて…」

陽子ちゃんは、今にも泣き出しそうでした。

「言わしておけばいいさ。ぼくたち、はずかしいことはしていないんだから」

「そうね、わたしたち、はずかしいこと何もしていないものね」

「だから、気にすることはないんだ。気にしない。気にしない…」

「そうよね。気にしない。気にしない…」

陽子ちゃんは、歌うように言うと、やっとほほ笑みました。

それから、しばらくたったころでした。校内ドッジボール大会が近づいて、学校中が明るく盛り上がっていました。

陽子ちゃんは、ビッコでも体育の授業では元気に走りまわっている姿を何度か見かけました。ドッジボール大会も楽しみにしているのだと言っていたのです。

大会の日、ぼくは、陽子ちゃんが気になって四年生のイス席の方ばかりをさがしました。だが、どこにも陽子ちゃんの姿を見つけることはできません。

ぼくは陽子ちゃんが病気ではないかと心配でなりませんでした。

そこで家に帰ってから、母に聞いてみました。

「陽子ちゃん、今日、休んでいたけど、病気かなあ?」

そのころ、ぼくの母と陽子ちゃんのお母さんは、ＰＴＡの役員で親しかったのです。

「あら、心配ないわよ。陽子ちゃん、病気じゃなくて大人のからだになったの」

「大人のからだって…?」

ぼくには、どういうことかさっぱり分かりませんでした。

「生理といって、女の子のからだのこと。こういちも大きなれば分かることよ」

「でも、学校を休んでて…　だいじょうぶ?」

「だいじょうぶよ。陽子ちゃんの母さん、赤飯を炊いてお祝いしたんですって」

「学校を休んだのに、お祝いなの?」

「女の子には大切なことなのよ」

ぼくは「生理」のことは、はっきり分からなかったですが、そのために学校を休まなければならない女の子は大変だなあと思いました。そして陽子ちゃんが何だかかわいそうになりました。

（つづく）

（愛知淑徳大学文学部教授）

知多の動植物雑記（二四九）

原　穣

先月号は壱町田湿地の花の紹介だけでしたが、ハルリンドウの開花を確認し、安堵の胸をなでおろしたこともあってか、この日は何故かいいことずくめ。

先ずは、A湿地で枯れ草の茎に何か虫が。何かナと眺めれば、体表は茶褐色で羽根の両側に薄い茶色の線が入っている。ひげは目の粗い櫛のようで、体長は八ミリほど。何これ?と思いつつポケットへ収め、横の草間を眺めれば、キリギリスの幼子さんかなと思われるもの（写真右下）が静止中。

そして帰路、湿地の南の田んぼを通りかかればケリが二羽。写真を！と車を止めれば、二羽が交互にキキッキキッと車の近くへ飛んでくる。

アラー繁殖地だったのネ、ゴメンと思いながら写真を一枚（右下）。

ケリは自分達の巣や、特に雛を守るため、近付いた犬や猫、人間にまでもキキッと鳴いて攻撃をする。わが子想いの鳥さんなのです。

そして今度は畑地の横を通れば、キジが目の前に。早速車を止めてカメラに収め（写真左上）有難う！

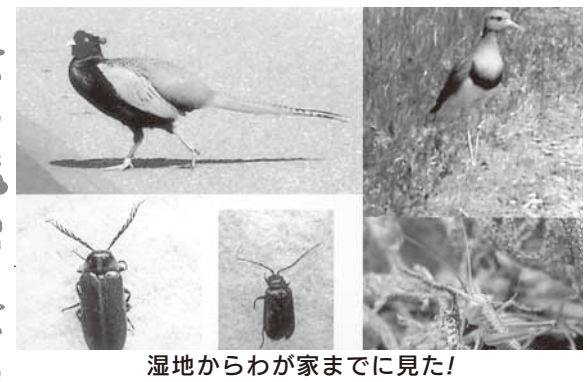
今日は大収穫だったナと家へ。庭先の蛇口で手洗い！と思えば、下のバケツの中に五ミリほどの小さな虫。拾いあげても名前は?

図鑑を開くも、らしきものはあっても??

かくなる上は、同好の士である平松俊彦に聞くのが一番と、実物を持参すれば、ヒゲが櫛状の虫（写真左下）はヒゲナガハナノミで、猿投山のふもとなどではよく目にするが、知多半島では佐布里でしか見ていないので、この辺りでは数の少ないもののようですね、と。

そして、わが家のバケツに浮いていた虫（写真下中）はクワハムシで、「この辺りではよく見ますよ。」と。

更に図鑑やパソコンでの確認までして頂き大感動。



湿地からわが家までに見た!

遺跡

町の考古学

弥生時代（百四十）

奥川弘成

知多半島では、弥生時代前期につくられた外からの侵入を防御する大きく深い溝で囲んだ環濠集落が発見されていません。それは、平野、平地での集落をつくる砂の丘が小規模であったことや人工的な大溝を造らなくて自然地形によって保護されていたからと考えています。

たとえ戦いを望まない知多半島の人々も外からの侵入者に対しての防御は必要です。人口の増加とともに耕地の拡大がもとめられたことでしょう。それにつれ米などの食料の生産が高まり、ムラは拡大しはじめます。

このことを示すように弥生時代中期になると、海岸沿いにあった遺跡のほか、丘陵寄りの標高が高い砂の丘に集落の中心を移動する傾向がみられます。

中には、台地の上に生活基盤を置く集落もありました。名古屋の笠寺台地にある見晴台遺跡は大規模な環濠集落として知られています。知多半島では半田市岩滑遺跡のほか武豊町ウスガイト遺跡があります。

この集落の移動の要因の一つに、海面の変化があります。清洲町朝日遺跡では、弥生時代中期前半から中ごろまでの遺構が海面の上昇にともない砂で埋まり、その上に新たな集落が形成されていることが分かっています。

この現象は、一般に弥生海退、弥生海進といいます。

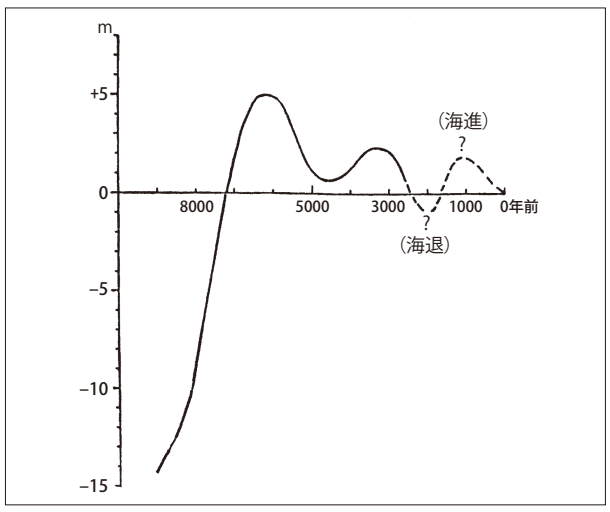
瀬戸内の岡山平野では三千五百年前から二千六百年前ころまでに現在の海水準より三mほど下がっていたとする研究があります。そして、尾張平野でも同様な傾向の海面変化がありました。

その状況は、縄文時代の終末から弥生時代前期ころに海退がありました。この弥生海退によって、尾張平野や海岸平野が陸化して砂の丘、砂堆が形成されました。ここに弥生時代前期の人々は集落を構えたのです。

そして、朝日遺跡の遺構が示すように弥生時代中期には海面上昇のピークとなり、標高の低い土地では海水が流入したので集落へ大きな影響をもたらしました。

平野部では海面上昇の影響が少ない標高が高い地域では、遺跡の移動の痕跡は見当たりませんが、低い地域での混乱は大きかったようです。いきおい生活基盤の安定したより標高の高い地への移動がおきたと考えます。

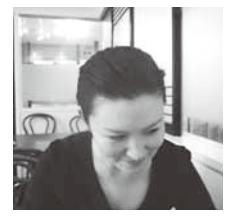
この弥生時代中期の半ばころは、新たに規模の大きな集落が生まれています。それは、弥生社会が大きく変化する過渡的な時期でもあるといいます。それまで分散していた小集落は安定した基盤をもつ平野地や台地に拠点となる集落をつくりはじめました。それは、三河湾を含めた伊勢湾周辺地域が同じ文化をもつようになる弥生時代後期にむけた国づくりへの第一歩であったようです。



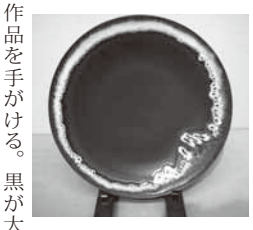
南知多町内海谷での海面変化（松島,1983）一部改変

ちょっとおじゃまします

陶芸家　伊藤友紀さん



料理好きの母の料理を盛り付ける皿をイメージすることが好きだった。「こうなりたい」と、10代で描いた人生設計図に素直にまい進した作品を手がける。黒が大好きで研究所では、黒の釉薬の勉強をしていたという。今も試行錯誤の毎日だという。納得する黒を出すには、まだまだ時間がかかりそうだが、黒のバリエーションを試す毎日が楽しくて仕方がないようだ。その黒も仲間からは、「発想が



たかった。やっぱり、陶芸が好きだった。そう思い立った20年4月、常滑市立陶芸研究所に入所した。

講師は面白くて、優しくて、穏やかで、拍子抜けするほど毎日を明るく楽しんでいる。生徒に慕われる谷川仁先生はじめ、谷川勝明先生、水上勝夫先生、杉江幸治先生、杉江明美先生と総勢たる講師陣だ。彼女は、「誰からも信頼される先生が全員好き」という。その中でも谷川仁先生が手がける作品は全てが使いやすく、機能性に優れているといい、谷川仁先生が目標だという。

彼女は、黒の釉薬に結晶釉を施変「気持ち悪い」「怖い」と、言われる始末だ。そんな仲間からの言葉にひるむことなく、「どこかしら、バランスのおかしなものに惹かれる」「癖のあるものが好きだ」「きれいなんだけれど、毒のあるものが好きだ」と、確固たる自信、確信があるから言い切れる返事なのだろう。

待ち合わせた喫茶店でスタイルの良さが際立つ彼女に、モデルのようなスマートさを感じた。打ち解けていくと、感性の面白い人だと気づいた。彼女の本格的な陶芸家としての幕開けが今、始まった。

（赤井　伸衣）

いべんと

▼シルバースクール・十七日～七月八日（毎週水・全四回）午前十時～同十一時半　内容　健康体操・歌・悪質商法を考える・新エネ体験館見学　場所　鬼崎公民館講義室他　対象　市内在住、在勤の六十歳以上の人　定員　九十名　受講料　無料　申込み期限　九日（火）　申込み先　生涯学習課・鬼崎公民館☎43-0660

◎**知多市地域文化センター**

▼創作クラブ『化石のレプリカを作ろう』・二日（火～三十日（火）午前九時～午後五時　内容　石こうや新聞紙粘土で化石のレプリカを作ります　材料費一個百二十円

▼季節工作・七夕かざり『・二日（火）～七月七日（火）午前九時～午後五時　内容　竹や布を使って、ねがいをこめながら七夕かざりを作ります　材料費一個百五十円

▼いろあそび『四色染め』・二十日（土）～三十日（火）午前九時～午後五時　内容　もようをつけながら、四色のいろをかさねて布を染めます　材料費一枚二百円

▼『ロウケツ染め』・二十日（土）～三十日（火）午前九時～午後五時　内容　ロウケツ染めにチャレンジしましょう　材料費　一枚二百円　限定二十枚

▼八十円工作『カエルを作ろう』・二日（火）～七月三十一日（金）午前九時～午後五時　内容　いろいろな材料を使ってカエルを作ります　材料費　一個八十円

▼ネイチャークラブ『ナイトハイク』参加者募集・七月十日（金）午後六時四十五分～同八時半　内容　灯火に集まる虫とヘイケホタルの観察　講師　知多自然観察会会員の皆さん　対象　どなたでもただし小学生以下は保護者同伴）　定員　四十名（応募者多数の場合は抽選）　参加費　一人百円　申込み　二日（火）～十四日（日）の午前九時～午後五時（電話でも可）

▼ファミリー劇場　チケット販売・七月五日（日）①午前十時半～　②午後一時半～　内容　人形劇団むすび座による『うみやまがっせん』『ちょろりんとっとけー』の公演　入場料　四百円（満二歳以上・全自由席）　発売日　六日（土）から　発売場所　勤労文化会館、東部・岡田公民館　ふれあいプラザおよび地域文化センター（電話予約はありません）

※センター夏まつり　ご協力のお願い・八月二十三日（日）にセンター夏まつりを開催します。みなさんの手形を押した三角の布でイベント広場にかざる旗を作ります。ぜひ手形を押しに地域文化センターまでお越しください・二日（火）～七月三十一日（金）午前九時～午後五時

◎**ギャラリー共栄窯**

▼Ｔｈｅ陶市5・5th　トコナメクリエイターズフラッグ・六日（土）～十六日（火）午前十時～午後五時（最終日は午後四時まで）水曜定休　毎年二月に名古屋のノリタケギャラリーでやっている『Ｔｈｅ陶市』。この度共栄窯のご厚意により常滑で展覧会を開けることになりました。凱旋の想いを込めてオープニングパーティ・六日（土）午後六時～　ささやかなパーティを開きます。持ち込み大歓迎です

◎**ギャラリーCera（常滑市観光プラザ）**

▼水野真澄陶展～八日（月）午前九時～午後五時半

▼常滑陶芸会展・十二日（金）～二十二日（月）午前九時～午後五時半

▼常滑書道会展・二十六日（金）～七月六日（月）午前九時～午後五時半

◎**常滑屋**

▼はちはち「天然工房　はちはち」・九日（火）～十四日（日）

◎**陶芸サロン陶美園**

▼加藤真美陶展・～七日（日）

◎**ギャラリーセピカ（まるふく内）**

▼一片窯　水上勝夫陶展―むくむく―・～七日（日）

▼浜坂尚子展・十二日（金）～二十一日（日）

▼柴田正明展・二十六日（金）～七月五日（日）

◎**方円館**

▼斉田君夫展・五日（金）～十七日（水）

▼藤田徳太展・十九日（金）～七月一日（水）

◎**ギャラリーとこなめ**

▼遊びとそだちは命　熊野に新窯を造る会・十日（水）～十六日（火）

▼青天窯グループ展・二十四日（水）～七月七日（火）

◎**武豊町立図書館**

▼切り絵展「かいつぶりの会」・十日（水）～二十四日（水）

▼教科書展示会・十一日（木）～七月五日（日）

◎**武豊町中央公民館**

▼ＩＴママ講習会　ママの再就職応援企画『ワードはじめの一歩』・二日（火）午前十時～正午　定員　十六名　参加費　七百円

▼ゆめたろうパソコン教室『パソコンに慣れよう』・五日（金）午前九時半～正午　定員　十五名　参加費　千円

▼くらしの書・展（家田書院）・六日（土）、七日（日）

▼そぼうち教室・七日（日）午前十時～午後一時半　定員　二十名　参加費　千円

▼親業体験！学習会（相手も自分も大切にする話し方）・九日（火）午前九時半～正午　参加費　千円

▼自分でできる整体教室（夏ばて予防編）・十三日（土）午前九時半～同十一時半　定員　二十名

▼家庭教育ミニナー「能力を伸ばすほめ方・叱り方」・十六日（火）午前十時～正午　無料

▼福寿大学②財産を相続した時、もらったときの税金・十七日（水）午前十時～正午　定員　五百名（六十歳以上）　無料

▼子育てリフレッシュ講座　心と体のリラクゼイション・十八日（木）午前十時～正午　定員　二十名（子育て中の親）　無料

▼ふれあい昼食会・二十六日（金）　対象　一人暮らしのお年寄り

◎**武豊町民会館　ゆめたろうプラザ**

▼スーパーデュオ・ケロポンズ♪親子コンサート「歌って！踊って！ケロポンズ」・六日（土）午後三時半開演

▼アート&サイエンスで遊ぼう『アソ・フェス』・二十日（土）　①ゆめホタルフェスティップ　テレビ電話でフィジー諸島共和国と交流会・午後四時～同五時　②ゆめホタルキャンドルナイト　内田由美子（ソプラノ）さん日本の歌　独唱会、朗読会など・午後七時～同八時　③映画「ＥＡＲＴＨ」上映・午後一時～　④ネイチャークラフト教室・間伐材でフォトフレームを作成など・午前十一時～（中部電力）　⑤科学実験教室・午後五時半～　電池から地球環境を考えよう　人間が電池になる？世界最小二足歩行ロボット？（三洋電機）　⑥デジタル紙芝居・大魔王ムダーと不思議なじゅもん・午後三時～同三時半　中部電力　⑦地元各企業、団体による展示

▼レゴロボット製作教室・初級『・二十七日（土）、七月四日（土）、五日（日）、十一日（土）午前十時～午後四時半　定員　各日七名ずつ（計二十八名）　小学四年生以上）　無料

▼ミュージカル『地震　カミナリ　火事　オヤジ』災害から身を守るのは誰？それは近所の底力、助け合いと地域の愛・愛は連帯を作り　人々を災害から立ち上がらせてくれる　そお　人生は楽し！・二十八日（日）午後五時半開演

◎**武豊町総合体育館**

▼第十一回キッズビーチボール大会・二十日（土）

▼民踊講習会・二十七日（土）午後一時～同四時　無料

◎**東大高児童館**

▼さつまいもの苗植えと野外クッキング・六日（土）午前十時半～正午

▼父の日のプレゼント作り・二十日（土）午後一時半～同三時

◎**おおあし児童館**

▼おやつ作り・十四日（日）午後一時半～同三時

▼父の日のプレゼント作り・二十日（土）午後一時半～同三時

▼ちびっこクラブ・五日、十九日各（金）午前十時半～同十一時半

▼手話クラブ・十三日、二十七日各（土）午後一時半～同二時半

◎**くすのき児童館**

▼父の日のプレゼント作り・六日、十三日各（土）午後一時半～同三時半

▼こんなものを作ろう！・二十日（土）午後二時～同三時

◎**長尾児童館**

▼父の日のプレゼント作り・十四日（日）午前十時半～午後三時

▼ニュースポーツ・ドッチビーをしよう！・二十七日（土）午後二時～同三時

◎**半田空の科学館**

▼天体写真展・日食で世界旅行・六日（土）～八月三十日（日）

▼六月の星見会・昼の星・太陽と金星」①七月の日（日）午前十時～午後一時　②二十一日（日）午前十時～午後一時

▼天文・宇宙講座・ガリレオから最新の宇宙へ・十四日（日）午後三時～同四時半

◎**半田市青山記念武道館**

▼子育て支援事業　レッツトライ　一二三・二日（火）

▼第三十六回名古屋地区少年柔道大会（小学生）・七日（日）

▼第二十一回尾南地区居合道大会・十四日（日）

若竹俳壇

作品募集　毎月十日までに葉書で発行所へ

母の日や母美しきかなの文字
咲きつぎて雨をりをりのつつじかな
電子音どこかで聞ゆ青時雨
ベビーカー子に法被着せ春祭
伊勢の海大夕焼をひとり占め
新緑の他に色無し山の宿
三川の泰然と夏迎えけり
倉敷は芽吹く柳の白壁に映ゆ
柿若葉憩う農婦の声に艶
鯉のぼり風に息づく過疎の空
幼な子がかけ声かけて山車を引く
それぞれに子等は出で行き牡丹散る
過疎村に久々揚がる鯉幟
昭和の日平安の書を眺めをり
喝采のブーケ飛びたる朧の夜
浜行きも日延となりし春疾風
名刹や夕日雫の藤の花
筍や児は競泳で秒競ふ
極早生の田植終りし鍋田かな
芍薬のほぐれてピンクほのかなり
顔そむけ易き高さの藤の花
若葉風抜ける木の間の風葉碑
遠く住む孫思いやる端午の日
旅の宿鶯泣きて歓迎す
それぞれに身勝手のあり鯉のぼり
丸ケーキ予約満杯子供の日
滑り良き足踏ミシン浴衣縫ふ
芍薬のなかなか解けぬ蕾かな
新茶入れまづ一番茶仏前へ
玄関にみやこわすれの出迎えだ
雲重ね雨のこぼるる緑の日
母の日や出征のとき世話かけた
さわやかな風に吹かれて柿若葉
母の日に笑みと幸せ贈ります
休みとて我が家は田植まっさかり
茶の香摘む手あざやか絣の娘
セリをつむかおりの下であり遊ぶ

吉田ひろし　片岡　光子　青山　文代　竹内すゞ代　平賀たづ子　谷川と志江　加藤　久子　荒川　達雄　渡辺　民子　村井　範子　竹内ユミ子　幾世八千代　曽我部和美　竹内三千彦　やました悠　村井みさを　谷川　利子　杉山　和美　澤田　藤子　岩田つま子　馬場　利明　冨田　悦子　清水ドラ吉　藤井文月　桑山　撫子　浦崎ひとみ　林　瀬四四子　杉江　京子　古田　ちゑ　佐藤　美子　丹羽　きぬ　諏訪　正男　井野　清子　岩橋　洋子　柴山　美幸　中村　庄山　洋子

初心者対象
フラダンス1日体験教室ご案内
南国ハワイの音楽♪に癒されながら一緒にフラダンスを踊って楽しみましょう。この機会に、是非お気軽にご参加ください。
日　時：2009年6月19日㈮ 午後7時～8時
場　所：つや子バレエ教室（知多郡武豊町小迎140-2）
服　装：動きやすい服装
お問い合わせ先：
0569-72-1966（福田）・080-1622-8815（小川）
受講料500円
チケットこの日はたった1コイン（ワンコイン）でフラ体験が出来ます！
プルメリアマイコ
★プロフィール★フラダンスの本場、ハワイにてフラダンスを学び、ワイキキのホテルでのショー出演の他、日本でもパーティーを始め数々のステージでソロのダンサーとして活躍

達ちゃん・ゆっ子のハートフルコンサート
【出演】
ソプラノ：皿井由紀子
テノール：村上達也
ピアノ：印東智枝
ピアノ：久野三賀
【由目】
歌劇＜椿姫＞より「乾杯の歌」
エーデルワイス
夏は来ぬ 他
2009年6/27㈯
ゆめたろうプラザ　響きホール
PM1:30開場 / PM2:00開演 / 入場料¥1,499（ドリンク付）
お問合せ● 皿井0569-36-0415/印東0569-73-6504

わが家のニューフェイス

伊藤　翔一朗（１才1ヶ月）　武豊町平井

写真・文　伊藤　智春

しすぎて怒られちゃう時は抱っこしてね　泣けちゃんはいつもいっぱい遊んでくれるから　にもっとイタズラするんだ!!　でも父も

物園、いろんな所へ連れて行くから　大好きな公園や動物園へ連れて行くから　ちゃんはいつもいっぱい遊んでくれるから　みなさん初めましてで す。僕は翔一朗。いつも元気なやんちゃ坊主ですが時々イタズラまけずにうけどめるよ!!　でもいつもにこにこ　ちゃんこれからもいっぱい遊んでね

愛とMy Family

田中　大惺（７ヶ月）　常滑市森西町

写真・文　田中　亮一

はじめまして。大惺です。僕はパパの小さい頃にそっくりって言われるよ。パパが大好きで、お風呂に一緒に入るのが楽しみ。ほっぺが真っ赤になるまで入っちゃうよ。食いしん坊な僕は、バナナと苺が大好き。いくらでも食べれるよ。電気のコードを見ると口に入れたくて、ハイハイも頑張れちゃうんだ。将来はパパのお仕事お手伝いしようかな。

バラが咲いた バラが咲いた

My Happy Spot

沢山のバラが咲き、人目を引く。こんな沢山のバラを咲かせた人に興味が湧き、インタビューしてみることにした。鶏を愛し、また花を愛し、陽気で気さくな男性、㈲知多エッグ会長、中野勝二、その人である。バラを植えようと思った理由を尋ねると、園芸店に行った時香りが良く綺麗なバラが目にとまり、さし木や接ぎ木をして苗が沢山増えたので、どこに植えようかと考えていた時に偶然にも会社の隣に空きスペースがあったから…特別な理由は無かった。と照れ臭そうに答えてくれた。１００種類以上あるバラの中で、病気に強いものと香りの良いものを沢山咲かせるキッカケになったと言う。ここでは、大きく２つの品種に分けられる。非常に花付きが良く、耐病性に優れ育てやすい『ノックアウト（ローズピンク・赤）』というバラ、また元ビートルズのポール氏の名を冠した『ザ・マッカートニーローズ（ピンク）』の２つである。咲く期間が５月から12月まで

と長く、見た目が美しい、そしてなんといっても香りが良い。

自宅は標高84ｍの小高い丘の上、中部国際空港セントレアが一面に見わたせる。太陽の光が飛行機の離着陸を演出させる。すばらしい風景が、そこにある。自宅の南側にある山を案内してくれた。そこには、会長が一生懸命育てたクリスマスローズの遊歩道がある。しばらく歩くとブルーベリーやレモンの並木道に出る。そこを進むとコンテナを置いたお手製の展望台があり西にはセントレア、東には三河湾が一望できる。「もう少し整備して入場料をとりバラ園とクリスマスローズ街道を作ったら?」と尋ねると、「入場料は取らない、そのかわり見に来てくれた人達に草取りをして欲しいなぁ」と言う。そして今一番の夢は、九州阿蘇で手に入れた森林住宅に色々な珍しい木や草花を植え、そこに来てくれた人達の目を楽しませてあげたいと嬉しそうに話をしてくれた。

文・赤井　孝充